

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 毎月勤労統計(2015年5月)

発表日: 2015年6月30日(火)

～引き続き緩やかな増加基調～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝
TEL: 03-5221-4524

(単位: %)

		現金給与総額		常用雇用者数			総労働時間		
		前年比	所定内 前年比	前年比	一般 前年比	パート 前年比	前年比	所定内 前年比	所定外 前年比
		2014年	1月	▲ 0.6	▲ 0.5	1.2	0.6	2.7	1.3
	2月	▲ 0.5	▲ 0.9	1.2	0.6	2.6	▲ 0.2	▲ 0.6	6.2
	3月	0.3	▲ 0.7	1.2	0.9	2.1	0.4	▲ 0.1	8.7
	4月	0.4	▲ 0.6	1.4	0.6	3.3	▲ 0.8	▲ 1.1	6.7
	5月	0.2	▲ 0.4	1.4	0.7	3.1	▲ 0.9	▲ 1.2	5.3
	6月	0.6	▲ 0.2	1.5	1.0	2.8	0.4	0.3	4.2
	7月	1.9	0.0	1.7	1.1	3.0	0.6	0.5	3.2
	8月	0.6	▲ 0.2	1.7	1.3	2.4	▲ 1.7	▲ 1.8	1.3
	9月	0.4	0.0	1.7	1.1	2.9	0.4	0.4	3.3
	10月	▲ 0.1	▲ 0.2	1.6	1.0	2.8	0.4	0.4	2.0
	11月	▲ 0.2	▲ 0.4	1.6	1.1	2.8	▲ 2.8	▲ 3.0	0.4
	12月	0.9	▲ 0.2	1.7	1.2	2.8	▲ 1.2	▲ 1.2	0.3
2015年	1月	0.6	0.2	2.0	1.1	3.9	0.0	0.0	1.3
	2月	0.1	0.0	2.1	0.8	4.9	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 0.7
	3月	0.0	0.2	1.9	0.6	4.6	1.5	1.9	▲ 2.4
	4月	0.7	0.4	2.0	1.3	3.8	1.2	1.3	▲ 2.4
	5月	0.6	0.3	2.0	1.8	2.3	▲ 2.7	▲ 2.8	▲ 1.7

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計」

○引き続き緩やかな増加基調

厚生労働省から発表された5月毎月勤労統計(速報)によれば、一人当たりの現金給与総額(事業所規模5人以上)は前年比+0.6%と増加した。増加幅は前月から小幅縮小となったものの、賃金は緩やかな増加基調を辿っている。6月は春闘効果によって所定内給与の伸びが高まるのか、夏のボーナスの増加が実現するのかといった点が焦点になる。

内訳をみると、賃金の大部分を占める所定内給与は前年比+0.3%と3ヶ月連続で増加した。2014年は低迷が示された所定内給与だが、2015年に入ってから緩やかな増加基調を辿っている。所定外給与は同▲1.6%と3ヶ月連続の減少となった。足元の生産や消費は低調な推移となっており、引き続き製造業や卸売業・小売業が低迷しているものとみられる。特別給与は同+19.3%と高い伸びになった。特別給与はこれで7ヶ月連続の増加であり、引き続き好調を維持している。

なお、物価の影響を考慮した実質賃金は、前年比▲0.1%と減少した。名目賃金は増加が続いているものの、物価も食料品の値上がりなどから上昇が続いており、結果として実質賃金は前年比マイナスが続いた。先行きについては名目賃金の増加、物価の鈍化が見込まれ、実質賃金は改善基調で推移するだろう。

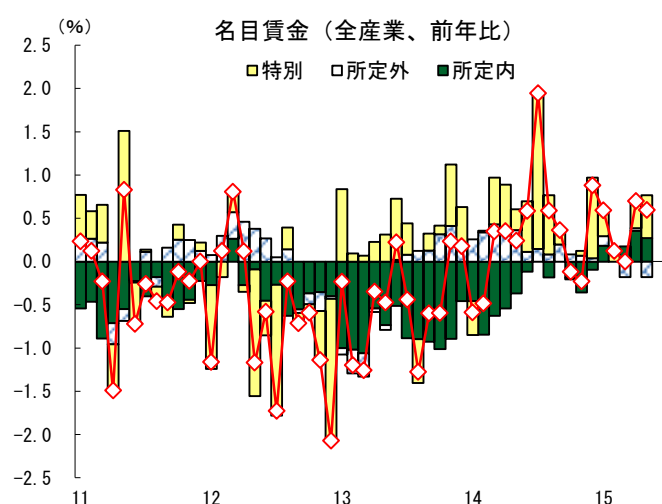
○雇用者数は増加傾向を維持

常用雇用者数は前年比+2.0%(一般:同+1.8%、パート:同+2.3%)と着実な増加が続いている。一般労働者、パートタイム労働者ともに堅調な推移となっており、雇用環境は引き続き良好だ。パートタイム

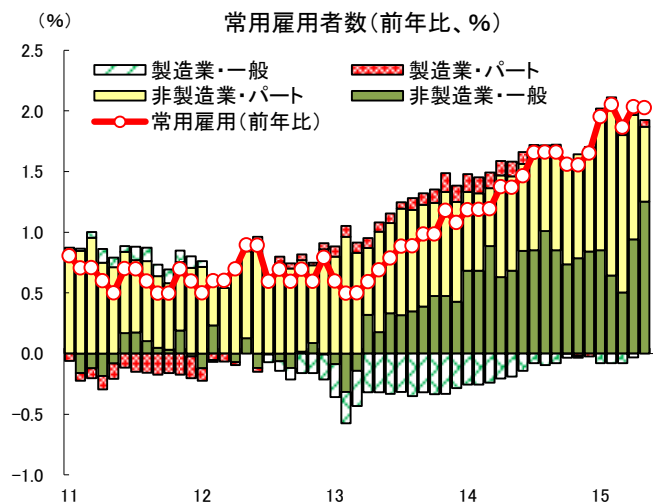
比率をみると、4月に上昇ペースが大きく鈍化した。一般労働者の増加幅が拡大する中、パートタイム労働者の増加幅が縮小しており、労働需給の逼迫による影響の可能性もある。パート比率は確報時点で上方修正されることが多いが、それを考慮しても5月のパート比率上昇幅は4月並となり、2、3月のかかなり速いペースから鈍化するとみられる。相対的に賃金の低いパートの比率上昇ペースに歯止めがかかれば賃金の後押しとなるため、今後の動向に注目したい。なお、マクロで見た家計所得は雇用、賃金の両面から押し上げられ、前年比+2.6%と高い伸びが続いた。雇用者報酬の安定的な増加は、個人消費の追い風となろう。

○先行きも所定内給与は緩やかな改善が見込まれる

以上のように、足元の名目賃金は緩やかに改善していることが確認された。先行きについても、所定内給与は緩やかな改善基調が続くとみている。春闘効果による押し上げや労働需給の逼迫が所定内給与の追い風となろう。雇用者数が緩やかな増加基調で推移する中、雇用に先行する新規求人数も増加傾向を持続しており、雇用の改善が続くと見込んでいる。引き続き企業の人手不足感が強いことも雇用改善の後押しとなるだろう。夏のボーナスは、好調な企業収益などを背景に明確に増加することが期待できる。なお、本日公表された国家公務員の夏のボーナスは、前年比+5.7%と高い伸びとなった。総じてみれば先行きの賃金は改善基調が続くと予想している。



(出所) 厚生労働省



(出所) 厚生労働省



(出所) 厚生労働省